

業界ダントツNo.1 FAX機械情報

全国5,000ホール配信

無断での転載は  
お断り申し上げます。

号外版

データCOMPASS

2014/12/19  
第40号GLOBAL  
Amusementグローバルアミューズメント株式会社  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-12-2 クロスオフィス渋谷8FTEL 0120-519-113  
FAX 03-6805-1029

## ～2015年に向けた業績アップ知識シリーズ～ 知っておこう!! 機械回転率の真実

グローバルアミューズメント株式会社  
代表取締役 青山 真将樹

Hondaのマーケティングプロジェクトリーダーとして新商品の開発企画に従事。  
企画商品は「日本カーオブザイヤー」、「日経新聞大賞」など各賞を獲得。  
2007年、とあるコンサル会社に入社。在籍6年9か月で4度の  
「年間最多コンサルティング受注」を獲得、現役最強トップコンサルタントとして突出した  
存在となる。2013年12月、パチンコ・パチスロの機械評価・市場分析に特化した、  
コンサル&シンクタンク会社グローバルアミューズメント株式会社を設立。  
現在、ホール&メーカーの双方から支持される業界唯一のコンサルタントであり経営者。  
(雑誌 PIDEAにて「データDYNAMITE High School」を好評連載中)

社長  
青山

皆様、こんにちは。グローバルアミューズメント株式会社 代表取締役 青山真将樹です。

早速ではございますが、本日の号外では“2015年に向けた業績アップ知識シリーズ”として  
“機械回転率”に関する考察記事をご提供させていただきます。業界全体の動向を判断する上  
で“必要な知識”ですので、社長・幹部・店長、皆様でお読みください。よろしくお願  
い申し上げます。

### ■新台回転率格差はなぜ生まれるのか？

#### 業界情報の“咀嚼力不足”によるミスリードが大きい。

毎年、年末年始に飛び交う情報として、「今年(前年)の振り返り話」と「来年(今年)の  
動向話」がありますね。特に、市場の動向を重視する経営者の皆様は注目する話題だと思  
います。定番となっている振り返り話として、「メーカーの新台販売台数」と「機械回転率」に  
関する話題が挙げられたと思います、業界全体の機械回転率については主に、

#### 新台年間回転率

$$= \text{新台年間販売台数} \div \text{前年末(当年初)設置台数}$$

で試算されるケースが多いと思います。新台の販売台数(証紙発行枚数)、設置台数ともに

警察庁公表数値を使って試算される場合が多いので、業界の“全体回転率”としては“最も  
精度の高い数値”といえます。そのためパチンコ回転率が1.0回転を切った2010年頃からは、  
業界メディア等でもより注目される話題となり、経営者・幹部の方には自社の入替計画の参考  
値としても活用されている方が多いようです。特に、マクロ環境情報が不足している中小零細  
ホール経営者様からは「業界全体の新台回転率が0.83なら、ウチは0.7～0.6くらいかな？」  
等といった質問を毎年頂きます。その度に私は、「そんなことをしたら、大手競合店に一気に客  
数を奪われちゃいますよ。」と答えています。

### ■経営者は“パチンコ設置約300万台”の回転率試算に疑問を感じよう!!

警察庁公表による2013年末のパチンコ設置台数は約300万台です。業界メディアやコンサル  
タントの中にはこの警察庁公表数値をベースに新台回転率を解説しているケースが見受  
けられますが、ホール経営者はそれらの情報を自社の入替参考値として観るべきでしょうか？  
答えはNOです。少し情報咀嚼力がある方なら、そのようは判断は絶対にしません。なぜなら、  
市場全体の設置台数には“新台を全く導入しない店”、“開店休業状態の店”も全て含まれる  
からです。市場をどう観るかという前提によっても変わりますが、新台導入店の設置台数合計  
は多く見てもパチンコで270万台前後が上限です。(もっと少ないと思ってます) “母数となる  
総設置台数”によって市場全体の回転率は大きく異なり、全体回転率数値(300万台前提)と  
実質新台回転率(270万台前提試算値)では以下のように数値が異なります。

	全体回転率 (設置300万台前提)	実質回転率 (設置270万台前提)
2010年	0.93	1.02
2011年	0.83	0.92
2012年	0.85	0.94
2013年	0.78	0.86

(回転)

ご覧のように、設置300万台前提の回転率は実質に対して“常に0.1前後低くなる。”  
と観た方が私は適切だと思っています。興味深いのは、2010年 全体回転率 0.93 →  
2011年 実質回転率 0.92、2012年 全体回転率 0.85 → 2013年 実質回転率 0.86  
のように、「前年の全体回転率と当年の実質回転率がほぼ同一数値となる傾向」が見受けら  
れることです。推察ですが、「業界人が参考にすべきでない全体回転率に合わせた結果で  
は？」とも考えられます。分析力の高い成長企業は絶対にそんな判断はしません。「業界情報  
は咀嚼しないとミスリードする。」という典型例だと思いますので、「あっ、オレ間違ってた」と思  
われた方はぜひ参考にしてください。 本日も最後までお読み頂きありがとうございました。

2015年に向けた必要知識満載!! 『DVD版 時流預言セミナー2015(テキスト付)』 弊社HPにて発売開始!!